

請 願 文 書 表

令和2年12月盛岡市議会定例会（令和2年12月16日）

受理 番号	受理年月日	請 願 の 要 旨	提 出 者 及 び 紹 介 議 員	付 託 委員会
6	R2. 12. 9	「新たな県立高等学校再編計画 後期計画（案）」盛岡ブロックにおける大規模統合に関する請願	盛岡市津志田町一丁目 12-15 盛岡南高校の存続を願う会 会長 遠畑 賢一 (紹介議員) 竹 田 浩 久 神 部 伸 也 村 上 貢 一 池 野 直 友 鈴 木 俊 祐 大 谷 陽 介	教育福祉 常任委員会
7	R2. 12. 9	「子ども一人ひとりを大切にし、感染症にも強い少人数学級」を速やかに実現することを求める請願	盛岡市本町通1丁目 10-35 少人数学級を実現する岩手の会 代表 田代 高章 (紹介議員) 竹 田 浩 久 中 村 亨 神 部 伸 也 村 上 貢 一 鈴 木 俊 祐	教育福祉 常任委員会

「新たな県立高等学校再編計画 後期計画(案)」
盛岡ブロックにおける大規模統合に関する請願

紹介議員

竹田 篤久

神部 伸也

村上 貢一

池野 直友

鈴木 俊祐

大谷 陽介

令和2年 12月 9日

盛岡市議会議長 遠藤 政幸 様

請願者 盛岡南高校の存続を願う会
会 長 遠畑 賢一
住 所 盛岡市津志田町一丁目12-15



請願第 6 号

「新たな県立高等学校再編計画 後期計画(案)」
盛岡ブロックにおける大規模統合に関する請願

【請願の理由】

岩手県教育委員会が2月6日に発表した「新たな県立高等学校再編計画 後期計画(案)」では、盛岡ブロックにおいて、盛岡南高校を令和4年度から1学級ずつ減らし、令和7年度に不来方高校と統合し、現不来方高校の校舎を使用するという大規模統合・再編計画が示されています。

この統合計画案が2月7日の新聞報道の後、地域住民やPTA、同窓会などでの説明や議論が尽くされないまま、盛岡市内の県立高校への志願一極集中を緩和するという理由により統合ありきで計画が進んでいます。

盛岡ブロックの中学卒業予定者は令和2年3月では4,176人、令和4年3月4,192人、令和7年3月3,986人とほぼ横ばいで推移し、盛岡南高校への入学者を地域別にみると、旧都南地区、矢巾、紫波からの生徒が全体の4割を超え、仙北、大宮を加えた盛岡の南部地域からの生徒は5割を超えている状況です。このことから盛岡南高校と不来方高校の統合を行うことにより、盛岡市、旧都南地区の中学生の進路選択が極めて狭くなり、盛岡南高校が統合されてなくなることにより、40人6クラスの1学年240人、3学年が無くなることで約700人程度の盛岡市の中学生が希望の高校への進路選択が狭まることを意味しています。

また、盛岡ブロックの平成30年度から令和2年度の平均学区外入学者512.7人のうち盛岡南高校へは平均34.6人の6.76%であり盛岡南高校に集中しているものでもない状況であって、統合しても地方の中学生が盛岡の高校へ進学希望し、選抜試験に挑戦することが妨げられることではない事から、両校の統合は盛岡ブロックの一極集中を是正することという取り組みには意に沿わないものであると言わざるを得ません。

盛岡市としても盛南地域の人口増加を見込めば、市内の普通高校が1校減るということは重大事案としてとらえていただきたいと考えます。

さらに、盛岡南高校は東北初の体育科を設置した高校として、これまで数多くのスペシャリストを輩出し岩手県のスポーツ競技のレベル向上へ貢献してまいりました。また、不来方高校は文科系の特色ある学科を設置し数多くの実績を残してきました。県教育委員会の説明では「特色ある学科を設置する学校についてはその特色を生かす学校として統合し、学校の魅力と活力を高める」としていますが、両校の特色は開校以来の生徒、教職員、保護者、地域が協力し合ってそれぞれ作り上げてきたものであり、同時に近接の高校として切磋琢磨しあって作

り上げられてきたものではないでしょうか。この両校の「学校の魅力と活力を高める」ためには、統合ではなく、それぞれの高校としてその特色を生かすことこそ必要だと考えます。

岩手県教育委員会は、この案に基づいて令和2年度中に計画を策定していますが、地域住民への説明や議論が尽くされないままに進んでしまうこととなり多くの市民に理解されないまま計画実施となることは明らかなです。

私共が呼びかけた「盛岡南高校の存続を願う。高校再編計画統合案の見直しを求める」署名には、盛岡南高校の関係者や地域の方々の間で急速に広がり、11月13日の岩手県教育長への嘆願書提出時点で12,580人分、11月25日の盛岡市教育長への嘆願書提出時点で14,362人分が寄せられ両教育長に提出させていただいたほか、現在もさらに賛同署名が広がっています。

以上のことから、今回の県立高等学校再編計画 後期計画(案) 盛岡ブロックにおける、盛岡南高校と不来方高校との統合計画について、盛岡市議会として反対を表明し、白紙撤回を求めて岩手県に要望をしていただきますようお願いします。

【請願事項】

岩手県に対して、「新たな県立高等学校再編計画 後期計画(案)」の、盛岡ブロックにおける盛岡南高校と不来方高校との統合計画について反対表明と白紙撤回を求める意見書を提出していただくこと。

2020年12月9日

盛岡市議会議長

遠藤政幸 様

請願者

盛岡市本町通1丁目10-35

少人数学級を実現する岩手の会

代表 田代高章



「子ども一人ひとりを大切にし、感染症にも強い少人数学級」
を速やかに実現することを求める請願書

紹介議員

竹内 裕久

中村 亨

神部 伸也

村上 真一

鈴木 俊祐



請願第 7 号

「子ども一人ひとりを大切にし、感染症にも強い少人数学級」 を速やかに実現することを求める請願書

〔請願趣旨〕

一人ひとりの子どもを大切にすゆきとどいた教育を進めるために現行40人学級より少ない少人数学級の実現は喫緊の課題です。また、新型コロナウイルス感染防止対策として学校の教室が密集状態を緩和するうえでも必要なことです。少人数学級を速やかに実現できるよう国が必要な措置をとるよう要望して下さい。

〔請願理由〕

学校は一人一人の子どもとじっくり向き合い、悩みに耳を傾け、個別の指導をすることが大切であり、現場からは40人学級でなく少人数学級実現の要望が強く出されています。岩手県内でも約30年前に40人学級が実現した直後から30人以下の少人数学級の実現を求める運動が続けられ、長年の努力で最近ようやく小・中学校では35人以下学級になっています。しかし、国の基準が40人学級のため教員配置など多くの困難を抱えておりますので、国の制度とし少人数学級を実現することが関係者から強く期待されています。

今、新型コロナウイルス感染防止対策で、学校教育の現場でも身体的距離の確保が課題になっていますが、40人学級の教室では子どものたちの身体的距離がとれず、「密集状態」です。これを避けるためには少人数学級にする必要性については、文科省の「学校の新しい生活様式」（2020年8月版）に指摘されているとおりです。

また、ICT教育環境の整備と併せて少人数学級実現の早期実現を求める声が強まっています。

7月2日には、全国知事会・全国市長会・全国町村会は連名で政府に「少人数編成を可能とする教員の確保」を要望しています。また、7月17日に閣議決定された「骨太方針2020」でも「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的整備」の検討を提起しています。9月24日には自民党の教育再生実行本部も「30人学級の推進」を決議しています。

来年度予算編成にあたって、少人数学級に踏み出す予算措置を実現することが、教育関係者の強い要望になっています。こうした状況を踏まえて、国に対して貴議会として意見書を提出していただくよう請願します。

〔請願内容〕

国に対して「子ども一人一人を大切にし、感染症にも強い小学校、中学校、高校の少人数学級」を速やかに実現することを求める意見書を提出して下さい。

<意見書提出先>

内閣総理大臣 菅 義偉様
財務大臣 麻生太郎様
文部科学大臣 萩生田光一様